



# 気象変動に打ち克つ米づくり

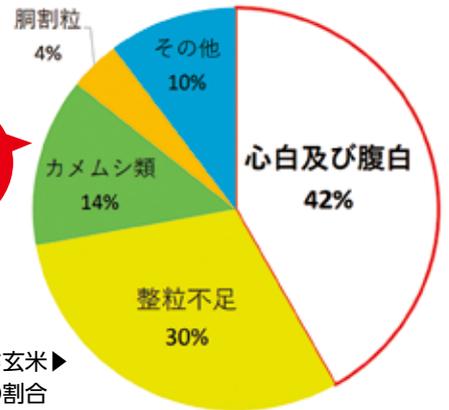
## Part3 ~温暖化により多発する病害虫防除のポイント~

### 病害虫の発生状況の変化

近年は、従来から発生している病害虫に加え、水稻・麦・大豆や野菜を広く加害する**ミナミアオカメムシ**などの害虫の定着や、一時期減少した**イネカメムシ**などの増加。また、これまで発生が少なかった**縞葉枯病**や**ごま葉枯病**など病害の発生リスクが高まっています。特に、カメムシ類の被害は、中晩生品種において著しく、今後の品質確保対策が重要となります。

特に  
中晩生品種  
カメムシ類  
被害多発

滋賀県内の水稻うるち玄米  
2等以下格付け理由の割合



縞葉枯病を保害するヒメトビウンカ 縞葉枯病 (6月頃)

早期の秋耕や育苗箱施薬の散布で事前防除。



ごま葉枯病

初期の過繁茂を避け稲の活力維持のため、土づくりや肥培管理を改善する



イネカメムシと被害粒

出穂期に玄米の基部を吸害し、不稔部を被害し、くず米を発生させる。

出穂3週間前と出穂期の畦畔管理の徹底。多発時は、通常防除に加え出穂期防除を検討する。中晩生品種は特に要注意。

次回は、多発する斑点米カメムシ類の防除ポイントを連載します。

pick up  
営農指導  
活動

### 青年部 先進地視察研修の開催

12月6日に、JAレーク伊吹青年部の現地研修会を開催し、水田を利用し大規模に加工業務用ブロッコリーの生産に取り組まれている、石川県の安井ファーム様にて研修会を行いました。青年部の参加者は、今後の自らの経営に反映したいとブロッコリー後の輪作体系や収穫・出荷方法などについて熱心に質問され、今後の良品生産に活かしたいと意気込んでおられました。



営農企画課  
長浜統括営農担当  
山崎 健太  
(JAレーク伊吹青年部  
事務局担当)